

【全体概要】

本県の特徴である交雑牛肥育経営において、交雑雌牛の繁殖利用への関心が高まっているが、取組事例が少ない。そこで、その課題及び解決に向けた調査、分析を行うとともに、交雑雌牛の繁殖から肥育にかけての飼養管理技術を確立・導入する。

新品種・新技術等の概要

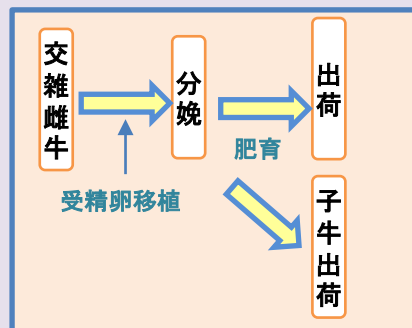
○交雑牛

一般的には、母牛としてホルスタイン種乳用牛と種雄牛に黒毛和種との間に生まれた牛で、肉用牛として用いられる。



○交雑雌牛の繁殖利用

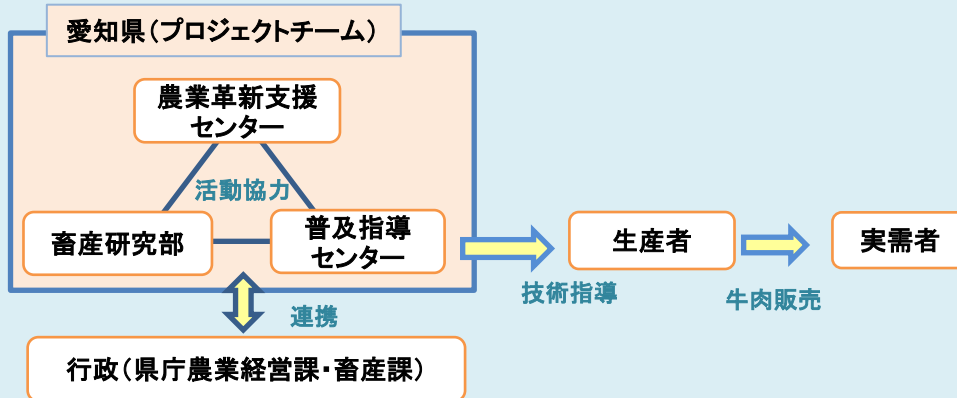
通常、雌牛は未経産のまま肥育されているが、繁殖機能を有効活用し和牛子牛を販売することにより、収益性向上を図る技術として、関心が高まっている。



主な取組内容

- 交雑雌牛の繁殖利用と繁殖利用後の肥育に向けた飼養管理技術の確立
- 交雑雌牛の繁殖利用に向けた意向調査
- 繁殖利用した交雑雌牛の販売力強化
- 生産された黒毛和種産子の市場性向上
- 交雑雌牛繁殖利用の経済性評価
- 交雑雌牛繁殖利用技術の普及に向けた資料作成

実施体制図



課題と今後の対応

- 交雑雌牛の繁殖利用に関して、調査したいずれの事例においても分娩事故等なく適正な管理ができていることが明らかになった。
- 意向調査において、肥育牛の販売拡大、将来的な繁殖和牛への転換を検討している農家がいることが明らかになった。
- 交雑雌経産牛肉の市場価値を高め安定供給できる体制が重要であると考えられた。
- 交雑雌牛の繁殖利用において、重要である和牛産子の販売価格とその飼養管理について明らかにする。
- 繁殖利用と肥育を効率的に行うための飼養管理マニュアル及び交雑雌経産牛肉の普及拡大に向けた啓発資料を作成する。